私の「シュウカツ」体験記

就職活動はどのようにスタートするの？　セミナーは？　エントリーシートは？　面接試験ではどんなことを聞かれるの？　ちまたには多くの就職関連書籍が出回っているが、身近な先輩の体験談が、最も参考になるだろう。

このページでは、悩みながら、自分なりの工夫を重ねて「希望の内定」を得た６人の４年次生から体験記をお届けする。共通しているのは、「精いっぱい頑張った体験を持っていること」。語れることがたくさんある人ほど、納得いく就職活動ができるはずだ。

就職課の「S-net」でも、「就職活動記録（必見!!　先輩からの hot な活動情報!!）」を閲覧することができる。参考にしながら、自分流の活動方法を見つけていこう。

（都合により写真は掲載いたしません）

懸命に取り組んだ「日常」伝えた

経済学科、唐鎌直義ゼミ＝東京急行電鉄

小杉　輝彦さん

就職活動を成功させるヒントは日常生活の中にあります。私にとってのそれは、所属するラクロス愛好会の活動でした。愛好会といっても活動内容はほぼ部活同然で、真剣に「勝ち」を目指し、練習もそれに見合った厳しさで取り組んでいます。7時からの朝練を週5日こなし、仲間と意見が食い違えばぶつかり合うこともあります。知らない人から見ればつらいことの方が多い環境かもしれません。

しかし、仲間と真剣に話し合うことで、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを読み取る力を得ました。4年次生になりチームを作ることで組織をまとめ上げることの責任を知りました。何の変哲もないサークル活動である「ラクロス」に学生時代の大半を費やし、仲間と共に泣き、笑い、感動した経験は、私を大きく成長させてくれました。面接で話したことに、特別なことはありません。全力で過ごしてきた日常を、自信を持って伝えただけです。

これから就職活動を始める後輩の皆さんにまず実行してほしいのは、今自分が興味を抱いていることに絶対に妥協せず、全力で取り組むこと。これだけで、必ず就職活動で勝てます。

企業の方が知りたいのは、学生がどんな資格を持ち、どんな経歴を持ち、どんな特別な体験をしたかではありません。どんなにありふれた経験でも、その中で人が何を感じ、何を考え、何を学び、どう行動したかです。これを今この瞬間から意識すれば、結果に必ず結びつくはずです。

頑張ったと胸張れる経験

経営学科、福原康司ゼミ＝スタンレー電気

山根　美咲さん

私は就職活動を始めるまで、資格を取得したり、インターンシップを行うなどといった特別なことはしていませんでした。3年次には、ほとんどの時間をゼミナール活動に費やしていました。私のゼミは「ガチで学び、ガチで遊ぶ」という理念のもと、勉強にも遊びにも力を入れました。ゼミで1年間活動したことにより、多くのことを学ぶことができました。

就職活動では、学生時代に頑張ったことについて必ず聞かれます。私はゼミナール活動でしたが、アルバイト、サークル、ボランティアなど何でもいいと思います。学生時代にこれだけは頑張ったと胸を張って言えるようなものを経験しておくと就職活動での自分の強みになると思います。

現在は、「学生の売り手市場」と言われていますが、私の就職活動はとても苦戦しました。最終面接までたどり着いたのに、役員面接で必ずといっていいほど落とされてしまうのです。今思うと、その原因は企業研究の甘さや、最終面接までたどり着いたという気の緩みだったと思います。「売り手市場」という言葉に甘えることなく最後まで気を抜かずにひとつひとつきちんとこなしていくことが就職活動を成功させるポイントだと思います。

そんな私が第1志望の企業に内定をいただけたのも就職課の方やゼミの先生、友人や両親の支えがあったからだと思います。就職活動は決して一人で行うものではありません。今までの自分に自信を持って頑張ってください。

動き、感じ、考え…そして出会う

英語英米文学科、田邉祐司ゼミ＝東海ゴム

内藤真理子さん

就職活動を始めたころ、一つのことを強く意識していました。それは「さまざまな業種の人たちと話す機会は、今しかない」ということ。

そこでマスコミ、金融、商社、メーカーとあらゆる分野の会社説明会に参加しました。3年次の2月ごろから自動車部品の会社を中心に活動を進めました。日本の強みである自動車産業の根本にかかわることができる、若いうちから大きな仕事を任される、海外駐在のチャンスがあることに魅力を感じたからです。

多くの会社を訪問し、同じ系列でも会社によって雰囲気が違うことに気付きました。その中で縁を感じる会社に出会いました。それが内定した会社です。説明会では履歴書を水でビショビショにしてしまい、筆記試験では鼻血を出してしまうという大失態を演じながらも、会社側は面接で私の考えをじっくり聞き、厳しい指摘もしてくださいました。面接が終わる度にすっきりした気持ちになった自分がいました。

「今の私に何ができるのだろう」と漠然とした不安から始まった就職活動。しかし、多くの人と出会い、今までの自分や将来の自分をじっくり考える貴重な機会を得ることができました。多くの方々に励まされ、支えていただきました。

就職活動で一番大切なのは「まずは動いて、感じて、考える」ことだと思います。考えても分からない時は、何が分からないのかを明確にすること。自分のペースで悔いの残らないように頑張ってください。きっとよい出会いがあるはずです。

何がしたいかな
何ができるかな
今までの…
これからの…
「自分」を見つめる時間

漫画研究同好会・福田勇太（ネット情報４）

ノートに「自分」つづり人に会い続け

法律学科＝電通

半澤絵里奈さん

「面接では、相手に自分を仲間だと思わせろ」。これは、3年前から共に東京五輪招致活動をしている仲間が私にくれた言葉のひとつ。就職活動中は、さまざまな言葉をプレゼントされましたが、冒頭のせりふが一番印象深く残っています。

4社にエントリーした結果、2社に内定。どちらも社会に仕掛けていく組織であることが共通点。学外で舞踊団を立ち上げ、五輪招致活動をし、法学部の授業評価委員会に参加し、ITメディアで働くうちに「仕掛けられるよりも仕掛ける方が断然面白い！」ということを知り、将来を考えるきっかけになりました。

いわゆる自己分析や就職本、四季報などを活用したことはなく、ただひたすら1冊のノートに自分の考えや思いを書き続け、生の情報を求めて人に会い続けていました。これは、だれかが作った就職活動のハウツーものに乗っていたらつまらない、という根拠なき理由から生まれた方法でした。

大きな困難にぶつかったことがあります。医学を志したもののなかなか大学に入れず、志半ばで人より2年遅れて入学。大学生になってからは順調に就職していく友達をうらやましく思いました。浪人しなければ経験できたであろう楽しいことをすべて経験したい！と切実に思った結果がプロアクティブに動いた最大の理由です。

二浪したことも専修大学に入ったこともすべてが自分のためになったと感じられ、未来は自分で創り上げるものなのだなと実感しています。

不安あっても楽しみながら

会計学科、菱山淳ゼミ＝パソナ

渡辺　知広さん

就職活動を始めるきっかけになったのは、就職課主催の企業研究講座でした。この講座でパソナと出会い、就職活動を本格的にスタートさせました。

パソナの説明を聞いた時、何かビビッときて、「この会社で働きたいな」と強く感じました。それまでこの会社のことは全く知らなかったので講座の後、すぐに会社にエントリーして、ホームページなどで調べセミナーに参加しました。

エントリーシートは、何度も就職課に足を運び、納得がいくまで書き直しました。自己分析や面接の練習はゼミの仲間と行いました。春休み中も集まり、情報交換などをしてお互いのモチベーションを上げました。就職課のスタッフに来ていただき、集団面接の練習もしました。

選考が始まってからはパソナを完璧な状態で受けるため、何社か練習をしてから本番に臨みました。そのおかげで自信をもって自分の考えを伝えることができましたし、自己PRもできました。私は目標を達成するまで突き進むタイプなので、内定をいただけるまで全力で取り組みました。

就職活動は、知らなかった世界に一人で飛び込んでいくような感覚です。新しい発見があったり、新しい仲間ができたり、ドキドキワクワクの毎日でした。

就職活動に不安を抱いている人もいると思いますが、目標を持ち、ありのままの自分で突き進んでいけば納得のいく結果は自然についてきます。

楽しみながら頑張ってください。

常に「なぜ？」と自分に問う

ネットワーク情報学科、青木憲二プロジェクト＝エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ

浅井　拓海さん

専門的な知識や特別な経験、就職活動に対する格別な努力。そういったものがなくても納得のいく就職活動は十二分に可能だと思います。私自身、大した経験はなく、就職活動に格別に力を注いだわけではありません。

就職試験では、面接試験がその大半を占めます。そこでは、必要以上に自分を大きく見せようとしてしまったり、練り上げた自己PRを一言一句もらさず暗記しようとしたりしがちですが、全く必要ありません。自分のことを謙虚に、相手にわかりやすく伝えることを〝自分の頭で〟考えればよいのだと思います。自慢話を聞かされても面白くないのと同じで、自分を伝えるために「特別な経験」「専門的な知識」が絶対必要というわけではないのです。

私自身は、自分を「なぜ？」と考えることによって言語化を図りました。例えば「私は明朗快活だ」と考えたらそれに対し「なぜ？」と問えば、必然的に言語化された答えが返ってきます。就職活動の中でその作業のみを頭の中で延々と繰り返しました。それに加え、筆記試験などの機械的な対策を必要なだけやれば、選考で落ちることはあまりないと思います。

選考という名前のせいか、人より特別な経験をしているか、専門的な能力があるか、就活セミナーなどへの参加の多寡で自分と競争相手を比べてしまいがちですが、機械的な点数試験ではない以上、そういったことがすべてではないのです。